

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年二月度 入選句（投稿総数二千百五十五句・小中学投句数千四百四十五句）

特選

えほうまき西南西はばあちゃんち 愛知県碧南市横井 友香(小五)

誰もが日々の無事を祈り、良いことがありますようにと願っていることでしょう。福の神がいるという今年の恵方が西南西で、その方角におばあちゃんが住んでいることが作者の喜びになっていることが伝わってきます。家族の幸せを祈りながら笑顔で恵方巻きを食べている光景が目に浮かび、読み手も温かい気持ちになります。今年ならではの一句です。

おにがくるこわがるおとうとだっこする 大垣市 やな瀬 妃緒里(小二)

節分の豆まきを楽しく感じる一方で鬼の存在をこわいと感じる弟をやさしく見守る作者の温かさがよく表れています。鬼が来ると思うといつもたつてもいられなくなる弟をだっこして「大丈夫だよ」と言っているのでしょう。体のぬくもりで安心していく様子も伝わってきます。下五の「だっこする」という言葉で、明るい一句になりました。

白いきとぎゅつとにぎつたたすきリレー 大垣市 小川 誠悟(小四)

駅伝を想像することができるときの一句です。季語は「白息(しらいき)」、「息白し」と同じように使われています。「ぎゅつとにぎつた」の中七がこの句に力強さを加え、たすきリレーにこめた駅伝ならではの強い意志を感じることが出来ます。次のランナーにたすきを渡そうと力をふりしぼって走る姿が一語一語によく表れている引きつけられる一句です。

秀逸

冬休み休むひまなくペンを持つ 加茂郡川辺町 長尾 峻助(中三)

手袋の人差し指に穴一つ 加茂郡川辺町 佐合 凌騎(中三)

秒針が夜を追い抜く受験生 加茂郡川辺町 石井 伸治(中三)

ねむい目をこすつてならばはつもうで 大垣市 松尾 京香(小六)

うぐいすがとりのことばでこんにちは 大垣市 三浦 惇平(小二)

ふうせんをはなしたとたんはるのかげ 大垣市 小見山 大空(小二)

おにはそとまいたらたべるよまめ七つ 大垣市 杉野 実咲(小二)

かきぞめのとつくするぞふゆやすみ 大垣市 田中 彩楽(小二)

春の雲遠くの空にうかんでる 大垣市 多湖 悠之介(小三)

散歩道まだ寒いかなねこやなぎ 大垣市 佐々木 唯名(小五)

入選

極寒の夜練光る僕の息
 はつもうでこの一年の無事祈る
 雪だるまあごに滴る水光る
 自転車のハンドルにぎる手凍っちゃう
 年賀状私の気持ち届くかな
 初日の出輝く光に胸はずむ
 双六で大吉の運使いきる
 かずのこのプチプチ歯のうらくついた
 だいこんをはたけでそだててお手つだい
 きゆうりさんおこっているよとげ出てる

大垣市 肥田 春渡(中二)
 加茂郡川辺町 馬場 琴菜(中二)
 加茂郡川辺町 木下 琉斗(中三)
 加茂郡川辺町 坪内 そら(中二)
 大垣市 山本 はな(小六)
 大垣市 高橋 祐月(小六)
 大垣市 中島 双葉(小六)
 大垣市 藤井 詩音(小五)
 大垣市 かわい ゆうひ(小二)
 大垣市 田之上 尊(小二)

入選

大なわでたくさんとんでいちいとる
 かるたとりことしはわたしが一ぼんだ
 鬼も内弟オニにそつとまく
 しゃぼん玉青空の中へとびこんだ
 白梅を毎日観察朝の道
 読書する少女の方に春の風
 はるのむしつめたいそとでひっこすよ
 木の枝のつぼみが春を待っている
 丸かじり良い事あるかなえ方まき
 みかんだべ黄ばんだ指さきあたためる

大垣市 白井 みくる(小二)
 大垣市 北川 結菜(小二)
 大垣市 土屋 遼人(小三)
 大垣市 伊藤 那乙(小五)
 大垣市 辻井 美葵(小五)
 大垣市 黒木 初葵(小五)
 大垣市 みや本 りようが(小二)
 大垣市 不破 寧音(小四)
 大垣市 笹川 泰幹(小四)
 大垣市 隠 和香(小五)

選者吟

ほつほつと土の目覚めて下萌ゆる

佐知子